

(様式 6)

平成 27 年 3 月 31 日

動物実験計画審査結果

動物実験責任者

所属 農学部 獣医学科

職名 准教授

氏名 日 高 勇 一 殿

宮崎大学長

菅 沼 龍 夫

申請番号 2012 - 010 - 4

1. 動物実験課題名

獣医外科学実習（I、II）

2. 実験期間

平成 27 年 4 月 1 日 ~ 平成 28 年 3 月 31 日

- 計画書通り承認します。（以後、申請番号を承認番号とします。）
 承認には計画の変更が必要であり、判定を保留します。
 実験計画は承認できません。

委員会からの意見

備考

(様式2)

動物実験計画書（更新）

2015年2月19日

宮崎大学 学長 菅沼 龍夫 殿

動物実験責任者

所属（学部学科等） 農学部獣医学科

申請番号 2012-010-4

職名 准教授 内線番号 7279

氏名 日高勇一



1. 動物実験課題名（具体的に記入してください。）
獣医外科学実習 I、II

2. 実験期間 開始予定 平成27（2015）年4月1日、終了予定 平成28（2016）年3月31日

3. 動物実験実施者（実験責任者、飼養者等を含む動物実験に関する全ての者の所属、職名、氏名を記入してください。）

氏名	所属	職名等	教育訓練受講履歴
萩尾光美	農学部・獣医学科	教授	2008-3 清武
永延清和	附属動物病院	教授	2013-2 木花
日高勇一	農学部・獣医学科	准教授	2012-2 清武
鳥巣至道	附属動物病院	准教授	2009-4 木花
都築直	農学部・獣医学科	助教	2013-5 木花
獣医学科5年生	農学部・獣医学科	学部学生	
獣医学科4年生	農学部・獣医学科	学部学生	

4. 動物実験の目的（実験の具体的な手法ではなく、目的の概要がわかるように記入して下さい。）

生体を用いることで、獣医外科学の基礎的な手技（保定法、消毒法、麻酔法、切開法、縫合法）を習得する。さらに、術後の管理（獣医学的看護）について実際にその要点を習得する。具体的に、犬では保定法、注射法、血管留置法を習熟した後、実際の麻酔を行う。その後、皮膚切開法、開腹法、不妊、去勢を行う。黒毛和種牛ではその取り扱い方（保定法）が主となるが、犬の場合と同様に上述の事項を習熟する。一方、ホルスタインでは第四胃変位によく遭遇することから、立位での開腹法、第四胃整復法を習熟する。

使用動物種	系統	微生物学的品質	上記実験期間中 使用予定頭数	導入元
犬	[REDACTED]	コンベンショナル	3頭	維持個体（2009年以降 [REDACTED] から導入）
牛	黒毛和種	コンベンショナル	3頭	農家（患畜から廃用となった牛）
牛	ホルスタイン	コンベンショナル	1頭	住吉フィールド

使用動物数の算出根拠

犬を用いた実習では、3頭をローテーションで実習に用いる。黒毛和種牛、ホルスタインに関しては大型動物であり、実習室の設備等の理由から、実習1回につき1頭を全員で取り扱う。なお、黒毛和種牛に関しては定期的な入手が困難であり、実際には2頭程と思われる。

遺伝子改変動物の導入 <input checked="" type="checkbox"/> 有り <input type="checkbox"/> 国内譲渡・ <input type="checkbox"/> 国際譲渡 <input checked="" type="checkbox"/> 無	6. 使用施設（飼育場所、実験場所にわけて記入。）
譲渡元：	飼養管理施設 獣医学科・屋外犬舎・牛舎
改変遺伝子名：	実験室 動物病院棟 小動物・大動物実習室 (H119) (H122)

7. 倫理的基準に基づいた動物実験の分類（カテゴリー）

- A : 生物個体を用いない実験、あるいは微生物を用いた実験。
- B : 脊椎動物を用い、動物に対してほとんどあるいはまったく不快感を与えないと思われる実験。
- C : 脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み（短時間持続するもの）を伴うと思われる実験。
- D : 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み（長時間持続するもの）を伴うと思われる実験。
- E : 無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い またはそれ以上の痛みを与えると思われる実験。

8. 特殊実験区分 (詳細を9-(1) 欄に、具体的な 安全対策を 9-(2)欄に記載)	1. <input type="checkbox"/> 感染実験 安全度分類: <input type="checkbox"/> BSL1 <input type="checkbox"/> BSL2 <input type="checkbox"/> BSL3 (接種微生物) 2. 遺伝子組換え動物 <input type="checkbox"/> 作成実験 <input type="checkbox"/> 接種実験 (区分: <input type="checkbox"/> P1A <input type="checkbox"/> P2A <input type="checkbox"/> P3A) 3. <input type="checkbox"/> 放射性同位元素・放射線使用実験(飼育場所: 使用核種:) 4. <input type="checkbox"/> 化学発癌・重金属・環境汚染物質・毒劇物等投与実験(投与物質名) 5. <input type="checkbox"/> 細胞等の生体材料移植・接種実験
--	--

9. その他必要 または参考事項	(飼養保管施設・実験室の承認状況に加えて、過去の動物実験計画書承認実績、学内の関連委員会（組換え等）への申請状況、飼養保管施設・実験室の承認状況などをも適宜記入。) <input checked="" type="checkbox"/> 項目6に記入した飼養保管施設は、宮崎大学学長の承認を受けた施設である。 <input checked="" type="checkbox"/> 項目6に記入した実験室は、宮崎大学学長の承認を受けた施設である。 <input type="checkbox"/> 遺伝子組換え実験安全委員会、 <input type="checkbox"/> 医の倫理委員会、 <input type="checkbox"/> その他 () に申請済み。 承認番号 () <input type="checkbox"/> その他特記事項（具体的に記入）
---------------------	--

前回許可を受けた実験計画を変更せず継続して実施する場合、本書式に経過報告書を添えて更新申請を行って下さい。

受領日 H27.3.10

審査結果通知日

(様式3)

動物実験計画書 (実験従事者等変更・追加届)

変更、追加のいずれかを○で囲む

2015年3月2日

宮崎大学 学長 菅沼 龍夫 殿

動物実験責任者

所属 (学部学科等) 農学部獣医学科

承認番号 2012-010-4

職名 准教授

内線番号 7791

氏名 日高勇一



1. 動物実験課題名

獣医外科実習Ⅰ、Ⅱ

2. 変更・追加事項 (実験内容および責任者の変更は、「変更届」を新たに提出すること。また、遺伝子組換え動物の追加は遺伝子組換え実験安全委員会の承認を得ること)

1) 実験従事者変更・追加

変更前実験従事者 (実験責任者、飼養者等を含め動物実験に関わる全ての者の所属、職名、氏名を記入してください)

変更後実験従事者 (実験責任者、飼養者等を含め動物実験に関わる全ての者の所属、職名、氏名を記入してください)

2) 実験動物種及び使用数等の変更・追加

変更等について、計画書に求められる情報 (動物種、系統、微生物学的品質、頭数 導入元) を記載。
頭数を変更する場合は、あらためて算出根拠を4欄に記載。

3) 実験実施期間の変更 (年度をこえる場合は更新として取り扱うこと)

4) その他

実験責任者の変更 (萩尾光美 から 日高勇一へ)

3. 変更・追加の理由

本年度で引退官を迎えること、早急に責任者を交代する

受領日 H27.3.12

(様式5)

動物実験 経過報告書・終了届

※いずれかに必ず○を付けてください。

2016年2月8日

宮崎大学 学長 池ノ上克 殿

動物実験責任者

所属(学部学科等) 農学部獣医学科

承認番号 2012-010-4

職名 教授 内線番号 7791

氏名 日高勇一



1. 動物実験課題名(承認を受けた課題名を記入してください)

獣医外科学実習Ⅰ、Ⅱ

2. 実験実施期間

予定期間 2015年4月1日 ~ 2016年3月31日

実際の期間 2015年4月13日 ~ 2016年2月1日

3. 使用動物

動物種	系統	期間中使用 予定頭数	実際の 使用頭数	予定数との差
犬	[REDACTED]	3頭	3頭	0頭
牛	黒毛和種	3頭	0頭	3頭減
牛	ホルスタイン	1頭	1頭	0頭

4. 実験動物の使用予定頭数と実際の使用頭数との間に大きな差があった場合、その理由を記して下さい

申請時の黒毛和種牛の使用予定頭数は3頭であったが、本年度は附属動物病院に来院する牛の症例が多く、実際の手術について見学を行うことで使用頭数の削減が得られた。

5. 動物実験の結果: 計画どおり実施, 一部変更して実施(変更届が提出されていること), 中止
その他(具体的に)

結果の概要

犬、牛を使用した獣医外科学実習はともに学部学生の教育に対し、十分な教育効果が得られた。

6. 研究成果の公表(予定、準備中の場合は、その時期も記入して下さい)

(1) 学会等発表(学会等名、開催期間・場所、演題名、演者名を記入してください)

(2) 論文発表(雑誌等名、年・巻、論文題名、著者名を記入してください)

(3) その他(教育講演等について時期、タイトル、場所等の情報を記入してください)

※記入欄に内容を記入しきれない場合は、用紙を足して記入して下さい。

受領日

2016.2.10



(様式 6)

平成 26 年 3 月 31 日

動物実験計画審査結果

動物実験責任者

所属 農学部 獣医学科

職名 教授

氏名 萩 尾 光 美 殿

宮崎大学長

菅 沼 龍 夫

申請番号 2012 - 010 - 3

1. 動物実験課題名

獣医外科学実習 (I、II)

2. 実験期間

平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 27 年 3 月 31 日



計画書通り承認します。(以後、申請番号を承認番号とします。)



承認には計画の変更が必要であり、判定を保留します。



実験計画は承認できません。

委員会からの意見

備考

(様式 2)

動物実験計画書(更新)

2014年 2月 5日

宮崎大学 学長 菅沼 龍夫 殿

動物実験責任者

所属(学部学科等) 農学部獣医学科獣医外科学

申請番号 2012-010-3

職名 教授 内線番号 7279

氏名 萩尾光美



1. 動物実験課題名(具体的に記入してください。) 獣医外科学実習 I、II				
2. 実験期間 開始予定 平成 26(2014)年 4月 1日、終了予定 平成 27(2015)年 3月 31日				
3. 動物実験実施者(実験責任者、飼養者等を含め動物実験に関わる全ての者の所属、職名、氏名を記入してください。)				
氏名	所属	職名等	教育訓練受講履歴	
萩尾光美	農学部・獣医学科	教授	2008-3 清武	
永延清和	附属動物病院	教授	2011-2 清武 もとの	
日高勇一	農学部・獣医学科	准教授	2013-2 木花 2012-2 清武で受けました。	
鳥巣至道	附属動物病院	准教授	2009-4 木花	
都築直	農学部・獣医学科	助教	次回受講予定	
獣医学科5年生	農学部・獣医学科	学部学生		
獣医学科4年生	農学部・獣医学科	学部学生		
4. 動物実験の目的(実験の具体的な手法ではなく、目的の概要がわかるように記入して下さい。) 生体を用いることで、獣医学外科学の基礎的な手技(保定法、消毒法、麻酔法、切開法、縫合法)を習得する。さらに、術後の管理(獣医学的看護)について実際にその要点を習得する。具体的に、犬では保定法、注射法、血管留置法を習熟した後、実際の麻酔を行う。その後、皮膚切開法、開腹法、不妊、去勢を行う。黒毛和種牛ではその取り扱い方(保定法)が主となるが、犬の場合と同様に上述の事項を習熟する。一方、ホルスタインでは第四胃変位によく遭遇することから、立位での開腹法、第四胃整復法を習熟する。				
5. 使用動物種	系統	微生物学的品質	上記実験期間中 使用予定頭数	導入元
犬	[REDACTED]	コンベンショナル	2頭	維持個体(2009年以降[REDACTED]から導入)
犬	ビーグル	コンベンショナル	1頭	申請番号 2010-024 で使用した個体
牛	黒毛和種	コンベンショナル	3頭	農家(患畜から廃用となった牛)
牛	ホルスタイン	コンベンショナル	1頭	住吉フィールド
使用動物数の算出根拠 犬を用いた実習では、3頭をローテーションで実習に用いる。黒毛和種牛、ホルスタインに関しては大型動物であり、実習室の設備等の理由から、実習1回につき1頭を全員で取り扱う。なお、黒毛和種牛に関しては定期的な入手が困難であり、実際には3頭程と思われる。				
遺伝子改変動物の導入 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 国内譲渡 <input type="checkbox"/> 國際譲渡 <input checked="" type="checkbox"/> 無 譲渡元: 改変遺伝子名:		6. 使用施設(飼育場所、実験場所にわけて記入。) 飼養管理施設 獣医学科・屋外犬舎・牛舎 実験室 動物病院棟 小動物・大動物実習室 (H119) (H122)		
7. 倫理的基準に基づいた動物実験の分類(カテゴリー) A: 生物個体を用いない実験、あるいは微生物を用いた実験。 <input type="checkbox"/> B: 脊椎動物を用い、動物に対してほとんどあるいはまったく不快感を与えないと思われる実験。 <input checked="" type="checkbox"/> C: 脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験。 <input type="checkbox"/> D: 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み(長時間持続するもの)を伴うと思われる実験。 <input type="checkbox"/> E: 無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近い、またはそれ以上の痛みを与えると思われる実験。				
8. 特殊実験区分 (詳細を9-(1)欄に、具体的な安全対策を9-(2)欄に記載)	1. <input type="checkbox"/> 感染実験 安全度分類: <input type="checkbox"/> BSL1 <input type="checkbox"/> BSL2 <input type="checkbox"/> BSL3(接種微生物) 2. 遺伝子組換え動物 <input type="checkbox"/> 作成実験 <input type="checkbox"/> 接種実験 (区分: <input type="checkbox"/> P1A <input type="checkbox"/> P2A <input type="checkbox"/> P3A) 3. <input type="checkbox"/> 放射性同位元素・放射線使用実験(飼育場所: [REDACTED] 使用核種: [REDACTED]) 4. <input type="checkbox"/> 化学発癌・重金属・環境汚染物質・毒劇物等投与実験(投与物質名) 5. <input type="checkbox"/> 細胞等の生体材料移植・接種実験			
9. その他必要または参考事項	(飼養保管施設・実験室の承認状況に加えて、過去の動物実験計画書承認実績、学内の関連委員会(組換え等)への申請状況、飼養保管施設・実験室の承認状況などをも適宜記入。) <input checked="" type="checkbox"/> 項目6に記入した飼養保管施設は、宮崎大学学長の承認を受けた施設である。 <input checked="" type="checkbox"/> 項目6に記入した実験室は、宮崎大学学長の承認を受けた施設である。 <input type="checkbox"/> 遺伝子組換え実験安全委員会、□医の倫理委員会、□その他([REDACTED])に申請済み。 承認番号([REDACTED]) <input type="checkbox"/> その他特記事項(具体的に記入)			

前回許可を受けた実験計画を変更せず継続して実施する場合、本書式に経過報告書を添えて更新申請を行って下さい。

受領日 26.2.7

審査結果通知日

(様式 3)

動物実験計画書 (実験従事者等変更・追加届)

変更、追加のいずれかを○で囲む

2014年 2月 5日

宮崎大学 学長 菅沼 龍夫 殿

動物実験責任者

承認番号 2012-010-3

所属 (学部学科等)

農学部獣医学科

職名 教授

内線番号 7279

氏名 萩尾 光美

印



1. 動物実験課題名

獣医外科学実習 (I、II)

2. 変更・追加事項 (実験内容および責任者の変更は、「変更届」を新たに提出すること。また、遺伝子組換え動物の追加は遺伝子組換え実験安全委員会の承認を得ること)

□1) 実験従事者変更・追加

変更前実験従事者 (実験責任者、飼養者等を含め動物実験に関わる全ての者の所属、職名、氏名を記入してください)

萩尾光美、日高勇一、永延清和、鳥巣至道
農学部獣医学科 4年生、5年生

変更後実験従事者 (実験責任者、飼養者等を含め動物実験に関わる全ての者の所属、職名、氏名を記入してください)

萩尾光美、日高勇一、都築直、永延清和、鳥巣至道
農学部獣医学科 4年生、5年生

□2) 実験動物種及び使用数等の変更・追加

変更等について、計画書に求められる情報 (動物種、系統、微生物学的品質、頭数 導入元) を記載。
頭数を変更する場合は、あらためて算出根拠を 4欄に記載。

2009 年に [] 事から導入した [] 3 頭および 2010-024 で導入した [] レ犬 1 頭 (コンベンショナル、導入元 []) は附属動物病院の輸血犬に移管した。

□3) 実験実施期間の変更 (年度をこえる場合は更新として取り扱うこと)

□4) その他

3. 変更・追加の理由

都築直教員着任により、実習従事者を変更する。
また、動物病院の輸血用の犬が不足しているため、輸血用の犬として [] 犬を 4 頭移管する。

受領日 26.2.7

(様式3)

H26.8/19

動物実験計画書（実験従事者等変更・追加届）

変更、追加のいずれかを○で囲む

2014年 8月 18日

宮崎大学 学長 菅沼 龍夫 殿

動物実験責任者

承認番号 2012-010-3

所属 (学部学科等)

農學部獸医学科

職名 教 授

內線番号 7279

氏名 萩尾光美

- ### 1. 動物実験課題名

獣医外科学実習 (I、II)

2. 変更・追加事項（実験内容および責任者の変更は、「変更届」を新たに提出すること。また、遺伝子組換え動物の追加は遺伝子組換え実験安全委員会の承認を得ること）

- #### □1) 実験従事者変更・追加

変更前実験従事者 (実験責任者、飼養者等を含め動物実験に関わる全ての者の所属、職名、氏名を記入してください)

変更後実験従事者 (実験責任者、飼養者等を含め動物実験に関わる全ての者の所属、職名、氏名を記入してください)

- ## 図2) 実験動物種及び使用数等の変更・追加

変更等について、計画書に求められる情報（動物種、系統、微生物学的品質、頭数 導入元）を記載。頭数を変更する場合は、あらためて算出根拠を4欄に記載。

犬を1頭追加購入する(、コンベンショナル)

- 3) 実験実施期間の変更（年度をこえる場合は更新として取り扱うこと）

- 4) その他

- ### 3. 変更・追加の理由

これまで使用していた~~○~~犬の老齢化がすすみ、今後実習に耐えられないことが予想され、新しい実習犬の導入が必要である。

受領日 26.8.18

(様式5)

動物実験 経過報告書 終了届

※いずれかに必ず○を付けてください。

2015年2月19日

宮崎大学 学長 菅沼 龍夫 殿

動物実験責任者

所属(学部学科等) 農学部獣医学科

承認番号 2012-010-3

職名 教授 内線番号 7279

氏名 萩尾光美



1. 動物実験課題名(承認を受けた課題名を記入してください)

獣医外科学実習Ⅰ、Ⅱ

2. 実験実施期間

予定期間 2014年4月1日 ~ 2015年3月31日

実際の期間 2014年4月14日 ~ 2015年2月2日

3. 使用動物		期間中使用 予定頭数	実際の 使用頭数	予定数との差
犬	[REDACTED]	3頭	3頭	0頭
牛	黒毛和種	3頭	0頭	3頭減
牛	ホルスタイン	1頭	1頭	0頭

4. 実験動物の使用予定頭数と実際の使用頭数との間に大きな差があった場合、その理由を記して下さい

申請時の黒毛和種牛の使用予定頭数は3頭であったが、本年度は附属動物病院に来院する牛の症例が多く、実際の手術について見学を行うことで使用頭数の削減が得られた。

5. 動物実験の結果: 計画どおり実施, 一部変更して実施(変更届が提出されていること), の中止
その他(具体的に)

結果の概要

犬、牛を使用した獣医外科学実習はともに学部学生の教育に対し、十分な教育効果が得られた。

6. 研究成果の公表(予定、準備中の場合は、その時期も記入して下さい)

(1) 学会等発表(学会等名、開催期間・場所、演題名、演者名を記入してください)

(2) 論文発表(雑誌等名、年・巻、論文題名、著者名を記入してください)

(3) その他(教育講演等について時期、タイトル、場所等の情報を記入してください)

*記入欄に内容を記入しきれない場合は、用紙を足して記入して下さい。

受領日

27.3.3

(様式 6)

平成 25 年 3 月 29 日

動物実験計画審査結果

動物実験責任者

所属 農学部 獣医学科

職名 教授

氏名 萩 尾 光 美 殿

宮崎大学長

菅 沼 龍 夫

申請番号 2012 - 010 - 2

1. 動物実験課題名

獣医外科学実習（I、II）

2. 実験期間

平成 25 年 4 月 1 日 ~ 平成 26 年 3 月 31 日



計画書通り承認します。（以後、申請番号を承認番号とします。）



承認には計画の変更が必要であり、判定を保留します。



実験計画は承認できません。

委員会からの意見

備考

(様式2)

動物実験計画書(更新)

2013年 2月 14日

宮崎大学 学長 菅沼 龍夫 殿

動物実験責任者

所属(学部学科等) 農学部獣医学科

申請番号 2012-010-2

職名 教授 内線番号 7279

氏名 萩尾 光美



印

1. 動物実験課題名(具体的に記入してください。)

獣医外科学実習 I、II

2. 実験期間 開始予定 平成25(2013)年4月1日、終了予定 平成26(2014)年3月31日

3. 動物実験実施者(実験責任者、飼養者等を含め動物実験に関わる全ての者の所属、職名、氏名を記入してください。)

氏名	所属	職名等	教育訓練受講履歴
萩尾光美	農学部・獣医学科	教授	2008-3 清武
永延清和	附属動物病院	教授	2009-2 清武
日高勇一	農学部・獣医学科	准教授	2012-2 清武
鳥巣至道	附属動物病院	准教授	2009-4 木花
獣医学科5年生	農学部・獣医学科	学部学生	
獣医学科4年生	農学部・獣医学科	学部学生	

4. 動物実験の目的(実験の具体的な手法ではなく、目的の概要がわかるように記入して下さい。)

生体を用いることで、獣医外科学の基礎的な手技(保定法、消毒法、麻酔法、切開法、縫合法)を習得する。さらに、術後の管理(獣医学的看護)について実際にその要点を習得する。具体的に、犬では保定法、注射法、血管留置法を習熟した後、実際の麻酔を行う。その後、皮膚切開法、開腹法、不妊、去勢を行う。黒毛和種牛ではその取り扱い方(保定法)が主となるが、犬の場合と同様に上述の事項を習熟する。一方、ホルスタインでは第四胃変位によく遭遇することから、立位での開腹法、第四胃整復法を習熟する。

5. 使用動物種	系統	微生物学的品質	上記実験期間中使用予定頭数	導入元
犬	[REDACTED]	コンベンショナル	5頭	維持個体(2009年以降[REDACTED]から導入)
犬	[REDACTED]	コンベンショナル	2頭	申請番号2010-024で使用した個体
牛	黒毛和種	コンベンショナル	3頭	農家(患畜から廃用となった牛)
牛	ホルスタイン	コンベンショナル	1頭	住吉フィールド

使用動物数の算出根拠

犬を用いた実習では、1学年5班編成であることから、各班に1頭ずつ割り当てる。残りの2頭については、実習前の臨床検査時に異常が発見された際の予備個体とする。

黒毛和種牛、ホルスタインに関しては大型動物であり、実習室の設備等の理由から、実習1回につき1頭を全員で取り扱う。

なお、黒毛和種牛に関しては定期的な入手が困難であり、実際には3頭程と思われる。

遺伝子改変動物の導入 <input checked="" type="checkbox"/> 有(□国内譲渡・□国際譲渡) <input type="checkbox"/> 無 譲渡元: 改変遺伝子名:	6. 使用施設(飼育場所、実験場所にわけて記入。) 飼養管理施設 獣医学科・屋外犬舎・牛舎 実験室 動物病院棟 小動物・大動物実習室 (H119) (H122)
---	---

7. 倫理的基準に基づいた動物実験の分類(カテゴリー)

- A : 生物個体を用いない実験、あるいは微生物を用いた実験。
- B : 脊椎動物を用い、動物に対してほとんどあるいはまったく不快感を与えないと思われる実験。
- C : 脊椎動物を用い、動物に対して軽度のストレスまたは痛み(短時間持続するもの)を伴うと思われる実験。
- D : 脊椎動物を用い、回避できない重度のストレスまたは痛み(長時間持続するもの)を伴うと思われる実験。
- E : 無麻酔下の脊椎動物に、耐えうる限界に近いまたはそれ以上の痛みを与えると思われる実験。

8. 特殊実験区分 (詳細を9-(1) 欄に、具体的な 安全対策を 9-(2)欄に記載)	1. □感染実験 安全度分類: <input type="checkbox"/> BSL1 <input type="checkbox"/> BSL2 <input type="checkbox"/> BSL3(接種微生物) 2. 遺伝子組換え動物 <input type="checkbox"/> 作成実験 <input type="checkbox"/> 接種実験 (区分: <input type="checkbox"/> P1A <input type="checkbox"/> P2A <input type="checkbox"/> P3A) 3. □放射性同位元素・放射線使用実験(飼育場所: 使用核種:) 4. □化学発癌・重金属・環境汚染物質・毒劇物等投与実験(投与物質名) 5. □細胞等の生体材料移植・接種実験
--	---

9. その他必要 または参考事項	(飼養保管施設・実験室の承認状況に加えて、過去の動物実験計画書承認実績、学内の関連委員会(組 換え等)への申請状況、飼養保管施設・実験室の承認状況などをも適宜記入。) <input checked="" type="checkbox"/> 項目6に記入した飼養保管施設は、宮崎大学学長の承認を受けた施設である。 <input checked="" type="checkbox"/> 項目6に記入した実験室は、宮崎大学学長の承認を受けた施設である。 <input type="checkbox"/> 遺伝子組換え実験安全委員会、□医の倫理委員会、□その他()に申請済み。 承認番号() <input type="checkbox"/> その他特記事項(具体的に記入)
---------------------	---

前回許可を受けた実験計画を変更せず継続して実施する場合、本書式に経過報告書を添えて更新申請を行って下さい。

受領日 25.2.15

審査結果通知日

(様式3)

動物実験計画書 (実験従事者等変更・追加届)

変更、追加のいずれかを○で囲む

2013年 2月 14日

宮崎大学 学長 菅沼 龍夫 殿

動物実験責任者

承認番号 2012-010-2

所属 (学部学科等)

農学部獣医学科

職名 教授

内線番号 7279

氏名 萩尾 光美



1. 動物実験課題名

獣医外科学実習 (I、II)

2. 変更・追加事項 (実験内容および責任者の変更は、「変更届」を新たに提出すること。また、遺伝子組換え動物の追加は遺伝子組換え実験安全委員会の承認を得ること)

■1) 実験従事者変更・追加

変更前実験従事者 (実験責任者、飼養者等を含め動物実験に関わる全ての者の所属、職名、氏名を記入してください)

萩尾光美、日高勇一、菅野信之、永延清和、鳥巣至道
農学部獣医学科 4年生、5年生

変更後実験従事者 (実験責任者、飼養者等を含め動物実験に関わる全ての者の所属、職名、氏名を記入してください)

萩尾光美、日高勇一、永延清和、鳥巣至道
農学部獣医学科 4年生、5年生

■2) 実験動物種及び使用数等の変更・追加

変更等について、計画書に求められる情報 (動物種、系統、微生物学的品質、頭数 導入元) を記載。
頭数を変更する場合は、あらためて算出根拠を4欄に記載。

2010-024 で導入した [] 犬 2頭 (コンベンショナル、導入元 []) は本実習に使用することとする。

□3) 実験実施期間の変更 (年度をこえる場合は更新として取り扱うこと)

□4) その他

3. 変更・追加の理由

菅野信之教員退職の為、実習従事者ならびに使用頭数を変更する。

受領日 '25.2.15

(様式5)

動物実験 経過報告書・終了届

※いずれかに必ず○を付けてください。

2014年 2月 5日

宮崎大学 学長 菅沼 龍夫 殿

動物実験責任者

所属(学部学科等) 農学部獣医学科

承認番号 2012-010-2

職名 教授 内線番号 7279

氏名 萩尾光美



1. 動物実験課題名(承認を受けた課題名を記入してください)

獣医外科学実習Ⅰ、Ⅱ

2. 実験実施期間

予定期間 2013年4月1日 ~ 2014年3月31日

実際の期間 2013年4月1日 ~ 2014年3月31日

3. 使用動物

動物種	系統	期間中使用 予定頭数	実際の 使用頭数	予定数との差
犬	[REDACTED]	5頭	5頭	0頭
牛	黒毛和種	3頭	1頭	2頭減
牛	ホルスタイン	1頭	1頭	0頭

4. 実験動物の使用予定頭数と実際の使用頭数との間に大きな差があった場合、その理由を記して下さい

申請時の黒毛和種牛の使用予定頭数は3頭であったが、本年度は附属動物病院に来院する牛の症例が多く、実際の手術について見学を行うことで使用頭数の削減が得られた。

5. 動物実験の結果: 計画どおり実施, 一部変更して実施(変更届が提出されていること), 中止
その他(具体的に)

結果の概要

犬、牛を使用した獣医外科学実習はともに学部学生の教育に対し、十分な教育効果が得られた。

6. 研究成果の公表(予定、準備中の場合は、その時期も記入して下さい)

(1) 学会等発表(学会等名、開催期間・場所、演題名、演者名を記入してください)

(2) 論文発表(雑誌等名、年・巻、論文題名、著者名を記入してください)

(3) その他(教育講演等について時期、タイトル、場所等の情報を記入してください)

※記入欄に内容を記入しきれない場合は、用紙を足して記入して下さい。

受領日 26.2.7